

学会 Welcome 対談

05年新學員

×

南甲倶楽部

学会(同窓会)では実業界で活躍する學員で組織している南甲倶楽部支部の協力を得て、ビジネス界で活躍する先輩たちから新卒業生・在学生に、ビジネスパーソンの仲間入りに向けたアドバイスを語ってもらった。

出席者

足立 直樹・1962年卒業
西田 淳一・1979年卒業
古屋 圭子・1990年卒業
小林真太郎・2005年卒業
田中 裕士・2005年卒業
小田嶋美子

凸版印刷株式会社 代表取締役社長、経済同友会幹事
三井物産株式会社 食料・リテール本部リテール事業開発部室長
京王電鉄株式会社 経営企画部グループIT戦略担当課長
廣告社株式会社 福岡支社教育情報部
住友信託銀行株式会社 東京中央営業第二部
総合政策学部3年

思いをカタチにするためには
ビジョンを描くことが大切

田中 先輩方を目の前にして緊張していますが、まずは私たちの進路や今後の抱負などからお話させていただけます。私は日本企業の99%を占めるといわれる中小企業をサポートしたいと考え、金融会社に就職しました。実家が自営業をしていたこともあり、中小企業経営者は私にとっても身近に感じられる存在です。将来は経営者の良き相談相手になりたいと思っています。

小田嶋 今年の春で3年生になる私にとって、本格的な就職活動を迎えるのは来年。今は自分が一生懸命になれる仕事を模索しているところです。仕事を通して私という人間を「表現」したいと考えているので、今後さらに自分と職業について掘り下げて考えていきたいと思っています。

小林 私は広告代理店への就職が決まりました。中大在学中に様々なイ

ベントを開催し、それらの広告制作に関わっていたことから広告作りに興味がありました。就職後はいろいろな商品を売るためのお手伝いをすることにありますが、それらの商品やサービスを開発した人たちの熱い想いをくみあげ、それが伝わるような広告を作りたいと思っています。

古屋 これからの将来に対する皆さんの意気込みがよくわかりました。会社という組織に入ると、ままならないことも多く、時には焦ることもあると思いますが、常に自分なりの「想い」を抱き続けることが仕事へのモチベーションにつながるし、成功への原動力になります。いまの「志」を忘れずに頑張ってください。

足立 当社の事業コンセプトでもある「おもいをかたちに」するまでの道筋をよく考えながら、これからの社会人生活、学生生活を過ごしてほしいと思います。自ら目標を定め、そこに到達するまでの過程を常に考え続けることが、夢実現への近道に

なるはずで。

小林 ありがとうございます。私も今の気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。ところで、ビジネスの最前線にいらっしゃる先輩の皆さんが新人や若手社員に期待されることは何ですか。

西田 私はこれまでロシアと中東、



アフリカ以外のほとんどの国に行つてビジネスを行い、世界のグローバル化を肌で感じてきました。そのような経験を踏まえて思うことは、今後は個人や企業としての利益だけでなく、日本の国益まで考えて働くことのできる意志を持った若い人材が必要だということです。そのよ

うな人材が出てこない、世界が相手の大競争時代の中で日本が勝ち残ることはできません。これは本当に切実な問題だと思えます。当社、三井物産の槍田社長が常々言っていることですが、若い人たちの中から、スケールが大きく高い志を持った人が出てくることを期待しています。とくに中大出身の若い皆さんには、

そのような高い志を持って将来を考えてほしいですね。『夢』は持たなければ実現できません。大きく『夢』を描いてほしいと思います。

古屋 少子高齢化時代を迎え、これからの日本では女性が活躍できるチャンスがさらに高まっていくと思います。小田嶋さんのような元気な

後輩と一緒に頑張りたいですね。

足立 私は法学部出身ですが、卒業した当時、父からこう言われました。

「法学部を卒業するということは、法律にたとえるなら憲法の前文を学び終えたような段階だ。これから社会に出て、やっと第一章を学ぶのだ」と。この言葉は社会に出て経験を積み

むにしたがって、身にしみて理解できる話です。これから社会に出る皆さんには社会生活でさらに多くのことを学んで、ビジネスパーソンとし

ても、人間としても大きく成長してほしいと思います。

田中 ありがとうございます。ちよつとプレッシャーを感じますね

(笑)。

プロフェッショナル以外は生き残れないビジネスの世界

小林 これから社会に出る私たちは様々な期待や不安を抱えています。社会人として『楽しく働くコツ』の

ようなものはありますか。

足立 私はこれまで辞めたいと思つたことは一度もないほど、会社が楽しくてしよがなかつたタイプ(笑)。だから参考になるかわかりませんが、

●南甲倶楽部 (なんこうくらぶ)

中央大学学生会(同窓会)の中で、実業界に籍を置く学员(卒業生)で組織する支部。現在、会員数は850名。定期的に講演会、懇親会を行うほか、母校への寄付講座、業界交流会、またゴルフコンペや観劇会を行っている。会長はイトーヨーカ堂の鈴木敏文会長兼CEO。



古屋 私たちの役割は、先輩からいただいた恩恵を後輩に返すこと



西田 志を高く持ち、世界で勝負できる人材になってほしい



足立 中大出身であることに誇りを持ち、今後も活躍してほしい

仕事を通して自分の世界や人脈が広がることを楽しんでほしいと思います。私は凸版印刷に入社した当時、会社の先輩から「印刷の勉強はするな」と言われました。これは「プロなんだから印刷のことは知っていて当たり前。他のことも真剣に勉強しなさい」という意味です。強烈なプロ意識の裏返しなんです。そんなこともあり、様々な業種・職種のお客様の仕事内容について見識を広げるように努力していましたが、好奇心が強かった私にしてみれば、とても楽しい毎日でした。

西田 新入社員の頃にはやりたいことができなかったり、不本意な業務を任されて悩むことも多いと思います。しかし、与えられた仕事に対してはプロになりきることが大切です。周囲からプロとして認められることで自分に自信がつくし、そんな姿勢が真の実力を育みます。そのような気構えであれば、仕事は自然と楽しくなるはずです。

西田 多くの企業が成果主義を導入しているいまは、年齢や性別に関係なく実力のある人が活躍できる時代です。女性や若い男性社員にとって、チャンスに満ちあふれた状況だといえるでしょう。ただその反面、自分の仕事でプロにならない人には厳しい時代です。若い皆さんには常にプロ意識を持って本当に頑張っていたいただきたいですね。

中大。パワーを継承し、伝播する ことが後進に託された使命

田中 実業界や法曹界を中心に、中央大学出身の先輩方が現在数多く活躍されています。皆さんは日頃のお仕事で“中大パワー”を感じることはありませんか。

西田 ここにおられる凸版印刷の足立さんやイトーヨーカ堂の鈴木さん、



小田嶋 自分という人間を表現できる仕事を模索しています



田中 活躍する先輩たちと交流できる場を増やしたいと思う



小林 同期会をみんなが気軽に集まる広場にしていきたい

キヤノンの御手洗さんなど、実業界には企業のトップとして活躍している先輩方が多数いらっしゃるほか、役員・管理職クラスも中大出身者は案外多いのです。残念ながら、当社には中大出身者は少ないのですが、仕事を通じて中大出身者のパワーは実感しています。

古屋 当社にも中大出身の方はたくさんいらっしゃいます。学閥は全くない会社ですが、同じ白門で学んだ縁から、仕事上のアドバイスをいただいたり、何かと気にかけていただくことも多く、先輩方にはとても感謝しています。先輩からいただいたものを先輩に返していくことも私たちの役割だと思っています。

足立 当社に学閥はありません。他社でもそのようなものはない企業が増えているでしょう。ですが中大出身者の活躍には注目しているし、活躍を見聞きすれば素直に嬉しいですね。箱根駅伝や野球など大学スポーツにも注目しています。

古屋 特に最近感じるのは仕事に脂が乗った世代の先輩方にパワフルな方が多いということです。でも近年の中大出身者は、「ちよつとおとなしいかな？」という印象があります。真面目な部分はとても評価できるのですが…。

田中 耳の痛いお話になってきました(笑)。確かに先輩の方々のご活躍は素晴らしいことだと思います。就職活動をしていた頃には、社会で活躍されている先輩からアドバイスをいただきたいと切実に感じました。もちろん卒業後にも世代の壁を越えて異業種交流などをできる場があればよいと思っています。

西田 中大出身の諸先輩方が政界、企業のトップや役員として活躍している、この流れとパワーを後進に伝播したいし、後輩もこの諸先輩方の助言や教えを自ら積極的に受けるようにしていただきたいですね。私たちにできることであれば、できる限り協力したいと思っています。

小田嶋 就職活動を控える私たちが在学生にとつても、とても心強く感じます。

足立 世代間の交流も大事ですが、同期の友人も大切にしてください。

利害関係抜きでつき合える学生時代の友人は一生の財産です。将来は自分のビジネス上のブレンンになってくれるし、友情が人生をより豊かなものにしてくれます。

小林 2005年卒業生は『白志会2005』という同期会を立ち上げました。インターネット上に集まる場を設けたり、定期的に集まるなど積極的に活動していく予定です。

足立 私たち南甲倶楽部の会員としても、もつと支部活動を活性化し、コミュニケーションを密にしておく必要がありますね。各世代の会員との交流を促進しながら、中央大学と学員会を盛り上げていきましょう。

(2005年2月25日・中央大学駿河台記念館)

*学員会ニュースは42ページに掲載